三鷹市立高山小学校　令和8年度【　　国語　　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○主体的に考えを表現できるように、課題の明確化、役割演技や動作化、吹き出しなどを取り入れたワークシートの工夫、ペアや少人数での発表の場を取り入れていくことで、話合いや発言をすることに自信をもつ児童が増えた。 ○話している相手を見て聞く態度の指導を日常的に行うとともに、聞いたことを繰り返し唱えたり、大事な言葉を板書やメモを見ながら再確認したりする活動を取り入れていくことで良い聞き手の育成につながった。 ○言語理解の定着を図るため、学校での全ての時間を通して既習事項を正しく使えるように繰り返し指導していくことが課題である。また、書く活動をする際には、見直しをすることを意識させていくことが課題である。	○一問一答のような課題には意欲的に取り組む児童が多いが、話合いや発言、自分の考えを発表する場面では受け身になりがちな児童もいる。考えや理由を答える必要がある発問には苦手意識があるように見受けられる。 ○人の話を聞く場面で集中して話を聞くことができず、大事なことを聞き落としてしまう児童がいる。 ○ひらがなを覚えきれていない児童もいる。助詞や促音、拗音も覚えきれていない様子が見られる。そのため、文章で自分の考えが伝わりにくい。	○主体的に考えを表現できるように、課題の明確化、役割演技や動作化、吹き出しなどを取り入れたワークシートの工夫、考えの例示をする等、自分の考えをもつこと、発言することに自信をもたせていく。 ○話している相手を見て聞く態度の指導を日常的に行うとともに、聞いたことを復唱させる。 ○語彙力を高めるために、新出漢字や大事な言葉が出てきたときには、その言葉を使った文章作りや言葉集め等を学習活動で取り入れる。 ○家庭学習でワークシートの活用やＩＣＴを活用し、また反復練習をさせることで促音や拗音等の定着を目指す。 ○言語理解の定着を図るため、既習事項を正しく使えるように繰り返し指導していく。また、書く活動をする際には、例を示し真似をしながら正しい書き方を身に付けたり、見直しをすることを意識させていくことで、自信をもたせていく。
第2学年	○読む学習では、接続詞や様子を表す言葉、文章のまとまりや繰り返し出てくる語など大事な情報に着目して読むよう指導したことで、文章を正しく読むことができる児童が増えてきた。また、登場人物になりきって表現するなど様々な表現方法を指導したことで、感情豊かに表現できる児童が増えた。 ○書く学習では、分かりやすく伝えるために、初め中終わりの文章構成、助詞の使い方や句読点の使い方を繰り返し指導したことで、相手に分かりやすい文章を書くことができた。 ○聞く学習では、最後まで聞くことができる児童が増えたが、自分事として反応したり、メモをしたりして聞く点は引き続き指導していく。	○読む学習では、日々の音読によって、順序を表す言葉や大事な情報に気を付けながら文章を読むことができる児童が増えている。しかし、読んだ内容について具体的に自分の考えをもつことについて課題がある。 ○書く学習においては、比喩表現を用いて、様子を具体的に伝える力がついてきた。内容を整理して順序立てたり、時間や場所、出来事を整理したりして文章を書くことについては個人差が大きい。読み返して文章を見直すことが必要である。 ○聞く学習の授業では、大事なことを落とさずに短い言葉でメモを取りながら聞く活動を行っている。また、生活科でもメモを取る活動を取り入れいるが、身に付いた力を日常生活や学習活動で活用したりすることについてはまだ個人差が大きい。簡潔にメモを取る練習を繰り返し行い、相手の考えを引き出す質問の仕方についても身に付けていく必要がある。	○読む学習では、音読で文字を読むだけではなく、順序を表す言葉や大事な情報に気を付けながら、文章のまとまりに着目し、読むよう指導する。また、登場人物の心情や情景を想像して、登場人物になりきって表現することや、自分自身を振り返るタイミングを取り、自分の経験と比較できるように指導する。 ○書く学習では、内容を整理して文章を書くことを重点的に指導する。そのために、時間や場所、出来事を整理する方法を示したうえで、順序立てて書くための話型を提示するなどの工夫をしていく。また、比喩表現を用いる活動は、文章を書くときに引き続き指導していく。 ○聞く学習では、大事なことを落とさないように、短い言葉でメモをする方法を指導していく。また、相手の考えを引き出す質問をする練習を日常的に取り入れ、生活や学習に生かす指導を行う。
第3学年	○漢字の学習では、日常的に既習の漢字を用いて文章を書くよう、ノートや作文の指導を行うことで、既習の漢字を積極的に活用することができるようになった。引き続き、漢字の意味を理解し、文章の中で活用する時間を確保したり、国語辞典を活用したりするなどの指導をしていく必要がある。 ○書く活動では、全体指導で書く内容を明確にし、書き出し方、使う言葉や文章構成について、具体例を挙げてから個々の活動に取り組ませることで、苦手な児童もすすんで取り組むことができた。書く内容を想像し、考えを広げることには課題が残る。	○オープンスペースに辞書のラックを置くことで、国語辞典を積極的に活用して言葉の意味を調べようとする児童が増えた。 ○読む学習では、物語の場面分けや登場人物の心情を読み取る際に、文章中の言葉を根拠にして読み取ることを意識できるようになった。 ○漢字の学習では、新出漢字が増え、学習の速度が速くなったことで、定着できていない児童がいる。小テストへの意識をもち、意欲的に練習している児童も多くいる。 ○書く学習では、書き出し方や書く内容の具体的な例を提示することで安心して取り組める。 ○話す・聞くの学習では、友達に対して話すことへの抵抗感は昨年と比べて薄れたが、相手意識をもって話すことや、他の人の意見を聞いて考えを広げることについては課題が残る。	○場面分けや心情を読み取るために、文章中の言葉と結び付けて読む学習を繰り返し展開する。 ○登場人物の心情や情景を想像できるように、実際に場面に書かれている動作を行うなど様々な表現方法を提示し指導する。 ○国語辞典を直ぐに手に取れる場所に用意し、すすんで活用できるようにする。 ○音読の家庭学習に継続的に取り組むことで、声の抑揚や大小を意識して、感情豊かに表現できるようにする。 ○漢字の学習では、既習の漢字を積極的に活用するようにノート指導を行う。書写の学習を通して、字を丁寧に書き写すことの良さを感じることができるように指導する。 ○書く学習では、書く内容を想像し、考えを広げることのできる十分な時間の確保をする。 ○話す・聞くの学習では、単元に入る際に相手を明確にし、目的意識をもって活動できるようにする。また、友達の考えを聞いて気付いたことや取り入れたいことを発表する場を設け、他者の考えを手がかりに自分の考えを見直し、広げられるようにする。
第4学年	○音読では、言葉の意味を全体で確認することで、言葉の意味や文節の区切り方を覚え、スムーズに表現することができるようになった。聞き手に伝わるような抑揚を意識した音読を徹底した結果、発表する場面で言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意できる児童が増えた。 ○漢字の学習では、文章の中で既習の漢字を使うことを意識させていたが、まだ自分からはできない児童が多い。 ○書く活動では、全体指導で書く内容を確認してから個々の活動に取り組ませることで、自分の感想や考えをもつことができるようになった。	○音読の学習では、宿題を毎日出すことによって、物語の展開を覚えたり、文節を区切って正しく読むことを意識しつつある。 ○読解では、感想、自分の意見を書くことができる児童は多い。しかし、「なぜそう思うのか」まで書くことができる児童は少ない。 ○作文の学習については、基本的な始め・中・終わりの展開を書くことはできている。ただ、文章量が乏しく、自分の経験を織り交ぜた文書を書くことができていない児童が多く見られる。 ○漢字学習では、定期的に行っている小テストが児童の学習意欲の向上につながっている。また、熟語を書いたら加点というルールによって、熟語を自ら覚えようとする児童が増えている。	○音読では、宿題を毎日出すことを続けていく。さらに、週に１回の図書館利用、教師による読み聞かせによって、様々な文章に触れさせ、読む力、表現の仕方などを育む。 ○読解で自分の意見を書かせる際、何を書くのか明確で簡潔な指示を出す。また、意見を班で交流する際、他の人の意見をノートに書くよう指導し、様々な意見に触れさせ、自分なりの意見を書くことができるようになるようにする。 ○作文では、例や型の提示をする。文章の中で自分の思いをより伝わるようにするためという、自分の経験を織り交ぜることの目的を伝え、より良い文章になったことが実感できるように、下書きと推敲後の文章を比べたり、他の人と書いた文章を見せ、アドバイスをし合うことで定着を図る。 ○漢字学習では、小テストを引き続き続けていく。児童がノートをとる際に、習った漢字を積極的に使うように示す。ノートチェックの際、確認して赤で直すことを繰り返し指導することによって、習った漢字を日常生活で活用できるようにする。
第5学年	○定期的に漢字テストを行うことで知識の定着を図ることができた。 ○教科書の本文から分からない単語が出てきたら調べる習慣を通して、正しい言葉の理解につなげることができた。まだ、語彙力は不足しているため引き続き指導している。 ○読みの視点を意識させ、「情景描写」「最後の一文」「様子」など着目する点を明確にすることで、読解が苦手な児童も手がかりをもって読み深めることができた。 ○説明文では「おうちの図」を利用することで筆者の主張と例を分けて考えられるようになってきた。 ○ワークシートを活用して、事実と意見、伝聞を区別し、文章を構成する児童が増えたが、まだ区別できない児童もいるため引き続き指導は必要である。 ○学習用タブレット端末を活用することで書くことが苦手な児童も学習に取り組むことができた。	○既習の漢字を正確に書くことが難しい児童が多い。漢字のまとめテストでは、繰り返し練習することで定着できる児童が多い。ノート、作文、日記等の文章の中で習っている字を日常的に使って書くことができない児童が多い。 ○読解では、物語を読んで印象に残ったこと等を書くことができる児童が多いが、自分の経験と重ねて感じたことを書くなど深めて書くことは難しい。 ○自分なりに要点をまとめて要旨の文章を書ける児童がいる一方で、大事な言葉や文を捉えられなかったり、何を書いてよいのか分からず要旨の文章を書けない児童が多い。 ○読書を楽しむ児童は多いが、児童によって選ぶ書物の内容に差がある。長文の物語等を選ぶ児童がいる一方で、低・中学年向けであったり、科学読み物に偏ったりしている児童もいる。 ○書いた文章を読み合ったり、皆の前で報告文を発表したりする活動を友達と交流して行うことができる。自分の考えを伝えることもできる児童が多い。一方、時間内に自分の考えを書けない児童がおり、交流に参加できないこともある。	○授業中の漢字学習では漢字の成り立ち、構成、意味なども確認し、定着しやすいようにする。漢字スキル、漢字スキルノートの家庭学習を継続し、漢字のまとめテストは１週間以上前に予告して出題範囲を知らせ、繰り返しの練習ができるようにする。自主学習ノートを毎週末の家庭学習とし、既習の漢字を使って文章を書き、めあてと振り返りも書くように声掛けを行う。 ○読解では、人物関係図、読み取ったことをまとめて書くための表などを作成し、読み取りの際に利用する。自分の経験と重ねて感想を書く等ができている児童を手本として発表させ、他の児童が参考にして書けるようにする。 ○要旨を書く際には、文章構成、段落のまとまり、キーワード、要点を捉えた上で、始め、終わりを中心に要旨が書かれていることを理解させる。書けない児童に対しては、友達の文章や手本の文章を示して、参考にして書かせるようにする。活動を繰り返すことで、自分で考えて書けるようにしていく。 ○週に１時間程度、学校図書館を活用し、自分の生活に役立てるような幅広い読書活動を行わせる。調べ学習で使用する書物は事前に司書に依頼してラックを用意してもらい、児童が活用できるようにする。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの言語活動を通じ、ペア、少人数グループ、全体等の関りの中で伝えたり確かめたりする力を高め、思考力や想像力を養う学習場面を計画的に設定する。 ○ＩＣＴ機器を効果的に活用し、スライドを作成して報告文をまとめるなど、表現力を高め合う活動を推進する。

第6学年	○漢字の学習では、熟語や文章で覚えるような活動をしたり、ミニテストやまとめのテストなどを活用したり、覚えていない漢字も覚えられるよう工夫したが、習熟に関しては個人差も大きい。 ○発表した後につなげる意見を言った児童を価値付けることで、肯定的に友達の意見を聞く力が豊かになった。 ○物語文の学習では、情景描写や登場人物同士の関係などの叙述から、物語の構造や、作品の主題を深く読み進めることができた。 ○グループ活動を中心に話し合い活動を行い、事実や根拠をもとに話す力が育ったが、相手意識を持つことに関しては課題が残る。 ○視点を提示することで叙述から自分の考えを明確にできるようになった。	○漢字を「とめ・はね・はらい」などに注意して、正確に書き取ったり、ふだんの文章の中で活用したりすることができない児童が多い。 ○自分の意見をもつことができるが、考えを広めようとする児童が少ない。 ○学習課題に対し思考を深めることができなかったり、苦手だったりするため、直感的に答えるので、答えの論点がずれてしまうことがある。 ○共感的な聞き方ができるが、相手の意見に対し、批判的に考える力が弱く、相手の意見の真似をするか、自分の意見にこだわる児童が多い。 ○自分の考えが相手に伝わるように、端的に伝えることや文章を書くことに課題がある。 ○会話文や行動から登場人物の気持ちを読み取ることができるが、情景描写から読み取ることができる児童が少ない。	○間違えやすい「とめ・はね・はらい」のポイントを伝え、漢字の書き取りについて、授業の中で繰り返し指導する。また家庭学習でも反復練習をするよう促す。 ○グループ活動やペア活動を通して、自分の意見を伝える活動を増やす。 ○どの意見も肯定的に受け入れる姿勢を身に付けさせ、安心して発言、発表できる環境をつくる。 ○異なった意見をもった学習集団をつくり、意見を交流する場を設定する。 ○話す力は、意見や立場をはっきりさせた上で、その理由や根拠を述べるなど、相手に伝わりやすい話型を指導する。 ○読む力は、設問を正確に読む方法や叙述（会話文・行動・情景描写）を基に考えることを繰り返し指導する。 ○話し合う力は、自分の意見の妥当性を述べることに終始することなく、問いに正対しているかを基準に相手の意見の良いところや自分の意見との共通点を見付けて聞くように指導する。 ○全体で初めの意見と最後の意見を比較して、考えの深まりを共有し、意見を伝え合うことの良さを価値付ける。 ○書く力は、自分の考えを明確にし、それが相手に伝わるようにまず自分の考えを書き、理由をそのあとに書くことを常に意識させる。学習したことを話す力でも生かせるように指導する。また、書いた文章を読み返す大切さを指導する。